

第162号

ほほえみの会

2010. 1. 10

新年いかがお過ごしでしょうか。

今年寅年。寅という字はウ冠、人、臼からできている。ウ冠は家、人、そして臼は両手を合わせて固く結ぶ。つまり人が家の中にあって身を固く結ぶ。

「身を慎む」というのがこの字の意味だといえます。慎むというのは「己の内なる真の心に従う」ということで 仏教的な解釈で反省し、感謝して、奉仕する年だということです。

また、寅には「約束をする」という意味があるようですが君子豹変というように「変わる」という意味もあるそうです。

自らを省みて、取り巻くすべての環境がいい方向に変わってほしいものです

< 175回 ほほえみの会 >

最近入院された2組の方と堀越医師、嘉数医師含め6名の参加でした。

- ▼小学2年女の子、急性骨髄性白血病。1月4日に地元の総合病院で血液検査をしてもらい、その日のうちにこども病院へ入院。外で遊ぶのが大好きで元気な子供だったが、初詣で神社の階段上りがきついといい、顔色も悪くなったことから正月空けに病院へ。思い返すと鼻血が出たり頭が痛いといっていたこともあり、もっと早く気付いてやればよかった。院内学級への転校を勧められているが、学校へ病気のことをどう話したらいいのだろうか。また今後治療で食欲がないときにどうしたらいいのか悩む。

堀越医師からは、食事の持込については以前は厳しかったが、いまは看護師さんと相談をしたらいい、とのことでした。

特にこども病院は栄養士との連携が非常に良くできている。全国でも早い段階でNSTという栄養サポートチームが発足し、入院時から身長、体重など全患児のスクリーニングができている。そこで問題がある場合には早い段階で手当てが出来る体制になっている。またチーム医療が進んでいて多職種による回診も行われあらゆる方面から一人の患児を診ている。これは全国でも珍しい。とのことでした。

- ▼4歳女の子、急性リンパ性白血病。保育園の先生から顔色が悪く、唇も紫色をしているので病院で診てもらったらどうかといわれた。やせている子なのであまり気にしていなかったが、足が痛いと言い出したので病院へ行ってみた。血液検査はやりますか、どうしますかと医師が言うのでやってもらった。結果は来週わかるということだったがその日のうちに電話があり、すぐにこども病院へ行くようにとのことだった。抗がん剤治療を始め、一昨日から髪の毛が抜け始めた。本人もわかっていたとはいえショックの様子、母親のほうもショックが大きい。子供の姿を見るたびに涙が出てしまう。仕事もやめて看病をする。小学6年と2年の兄弟もこども病院のテレビ番組を見たことがあり妹の病気にショックを受けている。病棟に入るときに洋服などに雑菌がないか気になる。帰宅したときに部屋をどの程度きれいにしておけばいいのだろうか。

堀越医師からは、帰宅時は人ごみは避けたほうがいい。人込みとはデパートやエレベーターの中をいう。部屋はそれほど神経質にならなくてもいいが、エアコンなど初めて使うときに埃が噴出することがあるのでそれは注意したほうがいいとのことでした。また、病気をした子のほうが家族のイベントが多くなり親密になって結びつきが強くなる傾向がある。という話もありました。

次回 は 2月 14日(日) 11時からです
ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560
E-mail アドレス k_likeda@yahoo.co.jp
ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>